

## 支 部 長 挨 拶

1996年5月に行なわれました日本気象学会北海道支部の役員選挙及びその後に行なわれました支部理事会において前期に引き続き第20期の支部長に推薦されました。微力ではありますが、精一杯、北海道支部の発展のために努力する所存です。



既に御存知の通り、1997年の秋季大会は北海道支部が担当となっており、今年はそのためのウォーミングアップの年とも位置づけられるかもしれませんが、しかし、単に来年を期すというのではなく、今年も例年通り、いや例年以上に活発な活動を期待しています。

昨年度は文部省科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公開発表（B）」の補助を受け、支部気象講演会は市民大学講座「新しい気象学」（釧路湿原の大気環境と北海道周辺の地震活動）として釧路市で開催され、大変好評でした。また、第13回夏季大学では「地震はなぜ起こる」や「小惑星」といった気象学以外の分野の講義も取り入れました。

今年度は残念ながら支部気象講演会に文部省科学研究費の補助は受けられませんでした。また、滝川市の全面的なバックアップを受け、10月18日に開催する予定です。また、第14回目の夏季大学、年2回の研究会も例年通り行なう予定です。6月19日には、イギリス・マンチェスター大学理工学研究科のDr.Clive P.R.Saundersによる特別講演“Research into Thunderstorm Electorification”が行なわれました。

日本では朝の挨拶がお天気の心配から始まるお国柄、それだけ私達の大気現象に対する関心の深さが表わされているものと理解されます。一人でも多くの方が大気現象、そして気象学に興味を持っていただけるように皆様方の御協力をお願いするとともに積極的なご支援をお願い致します。

日本気象学会北海道支部

支部長 菊 地 勝 弘

(北海道大学大学院理学研究科教授)